



圖解

量地指南後編

二

41
726
2



門 Ⅲ I
號 726
卷

量地指南後篇卷之二

勢南 處士 村井昌弘編述

器用解

磁石切用

大凡磁石を用るの品數種いろいろいへども何の時も針頭と子の方ふ安して方位と定むるは古今の極法なり

第一小見込様小口傳り。假令子れ支を求る時通俗大体は午の線より子の線を見込て常なり。其事惡し。左すれば安居分明なり。海とのなり。只ふ直上よりして見込む。前後脇より見る時ハ外見ハ中なる如しといへども多分中なるもの也。眼精散やすれ故なり。是を第一の習とに

磁石の塵といふことなり。或ハ振様ふより。寫の十分中り。又ハ



支の九分も中るゝなり。是眼目ふ及ぶる処也。是塵と云
なり。此所ふてハ小差といへども。彼地ふてハ里町ふ延る故ハ大差
となる理なり。心を用ひて塵なれり。にすべし。

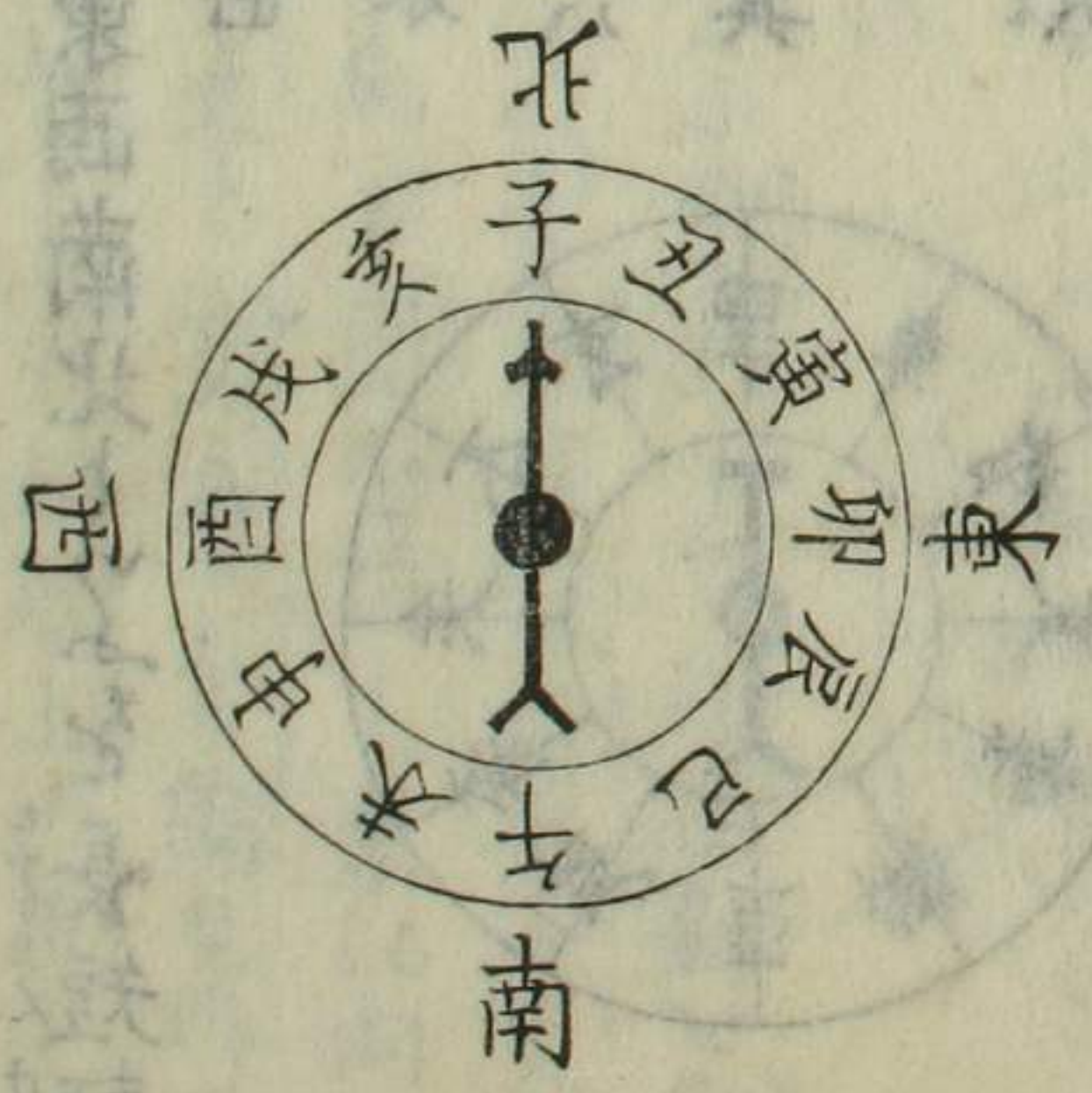
塵を隠すゝなり。右ふ述るゝ。磁石ハ塵出るゝ
も。大業のゝれ。此語と捨て可扱ものなり。故ふ止と得ずて
必用る也。此器ハ圖形を成ふ至て分間ふて少く心を用ひる也
遠里遠町を小圖ふ寫せば。必分間縮るものなり。茲ふ於て
自然ハ塵の隠る理もなり。

亦順逆の振様とつゝあり。假令ハ左方右方と一度も量る
ゝれハ進と行ふれ。先の當支とば。順ふ用ひ。跡の當支をば
逆ふ用るなり。或ハ子を午ふ用ひ。酉を卯ふ用るがゝれ。是
なり。是逆なるがゝれといへども。實ハ順路を用る意也。此術

業にわめて大益なり

又高下の地ふおめてハ振様別あり。凡て磁石ハ少くも傾く
時ハ。劔先太居物なり。故ハ山坡なふ於て振れハ。規矩
元器槽を用ひて。勾倍を寫して。其通を見込也。磁石とバ。少
くも傾るがゝる。安ふ居て

振るなり。亦振分とつゝあり
つゝ。小業ふて度々磁針を振
時ハ微塵はりて顯るふ依て
是を厭いて。所ふより振出して
塵を一遍ハ聚めざるがゝる。か
すなり。

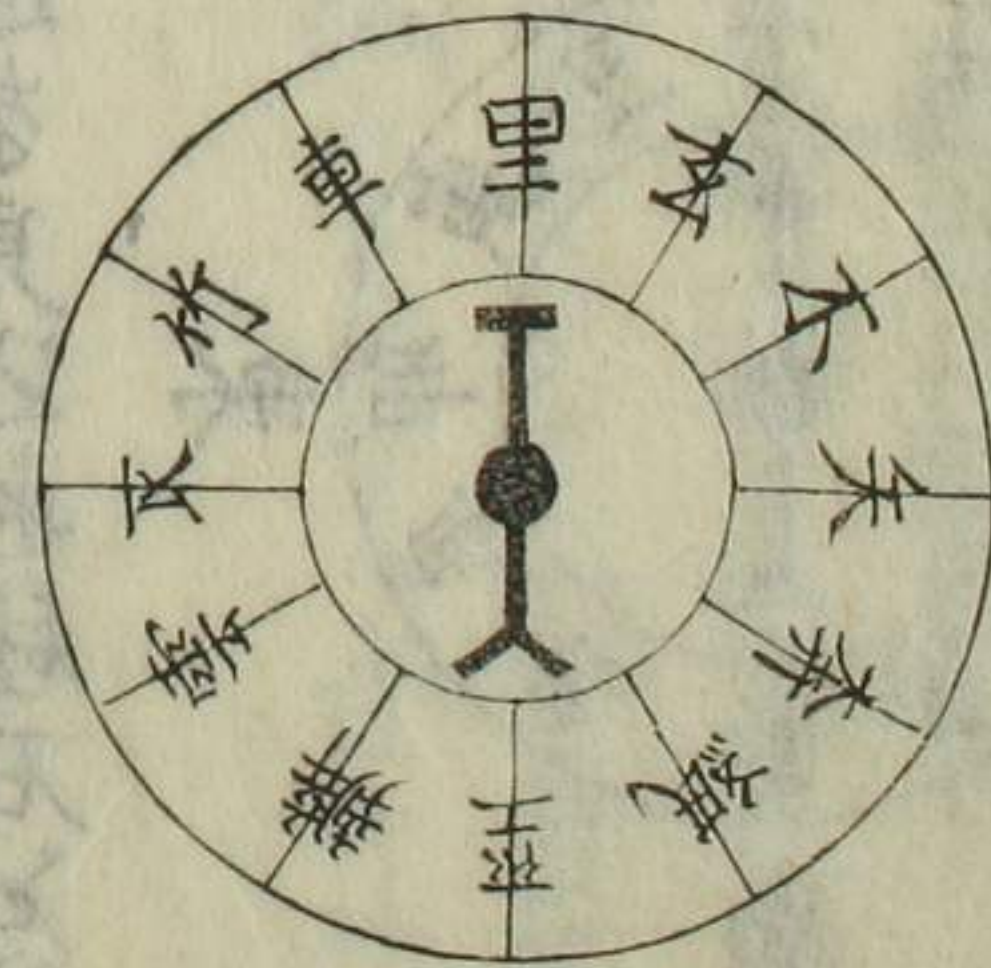


隠銘といふことなり。磁石の東西南北十二支ハ隠語を以て

記す。是いろいろ好事の作といふと、錢をば他を愚ふするの
 作めて、其余益なりとも見へば、其東西南北といふを、長短輕
 重の四字に作る。是即子午卯酉也。
 是ハ易云。木者長。金者短。火者輕。水
 者重。といふ語あり。其基く外八支ハ
 車竹雲辨紙奔不玄の八字に替ひ其
 字意を考ふる甚笑ふ堪た。

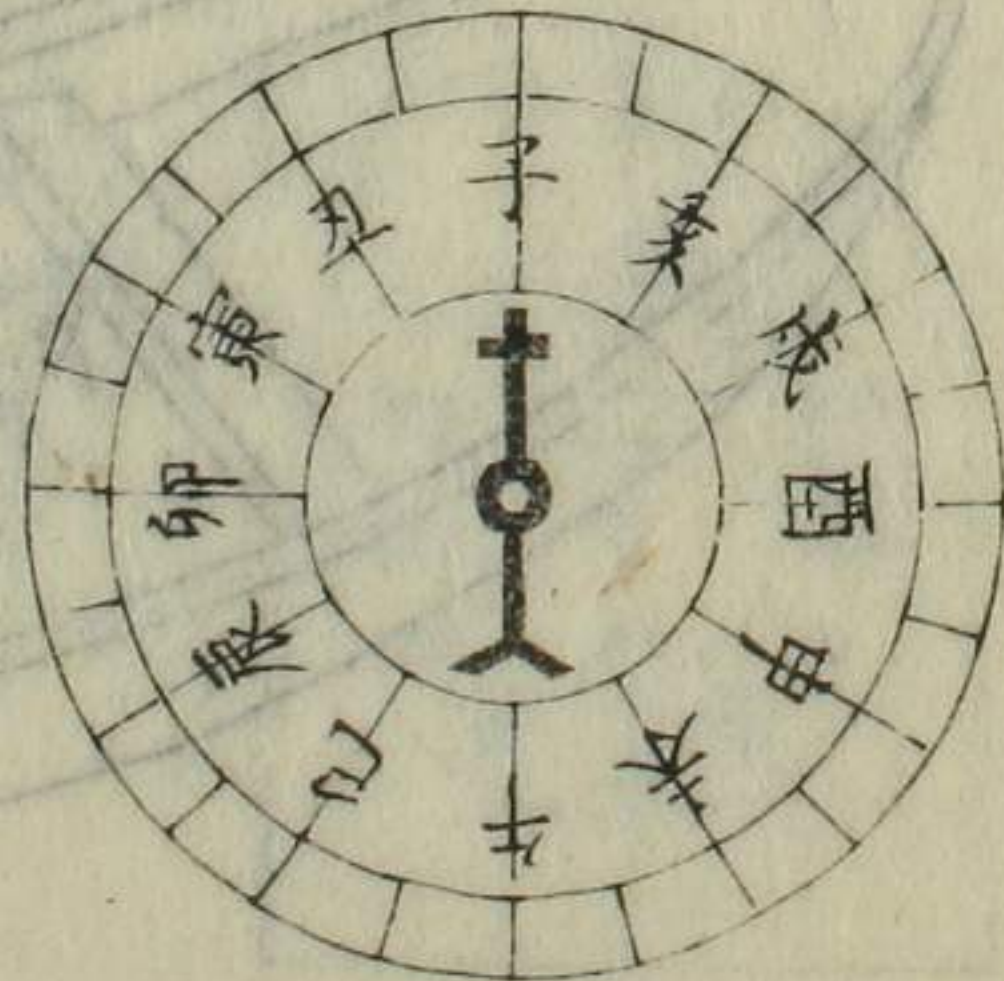
逆磁石といふものなり。逆目磁石共
 不常ふ反して十二支を左へ配る。

逆小居るものなり。右の隱銘の條小述る所。即是なり。今初
 學隱字の解を、これを通曉し安めんと爲ふ。正字を以て
 記す。此逆支船路又ハ國圖小用るゝ多し。往々其用所小



便利の用法を記す

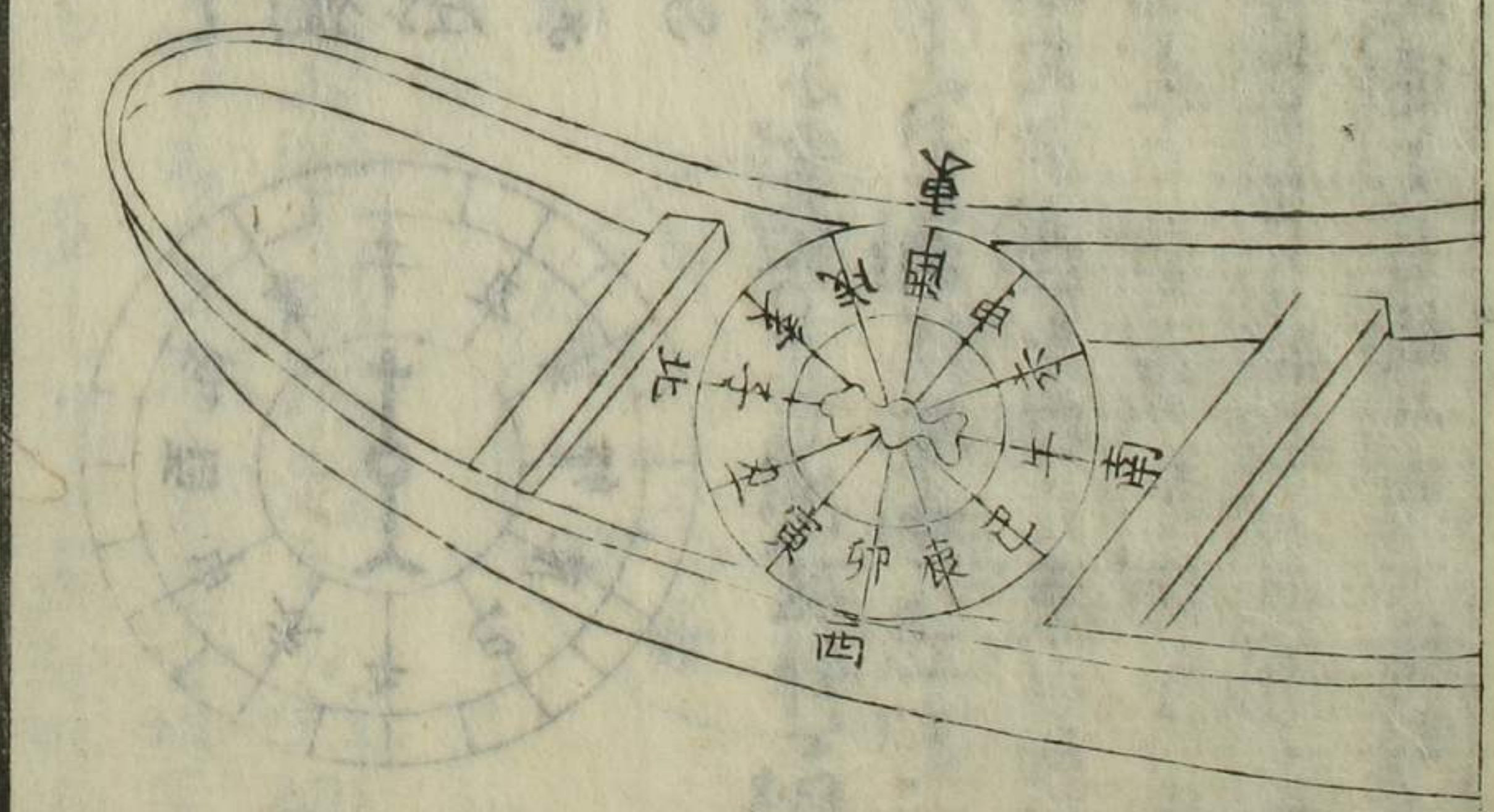
逆磁石といふもの。左小委く述べた
 其用船上ふりて陸地ハ甚益
 あふ。其制常例ハ反して左
 方ハ十二支を配分し方位を見る
 方ハくは、扱方用を用る。此ハ何の



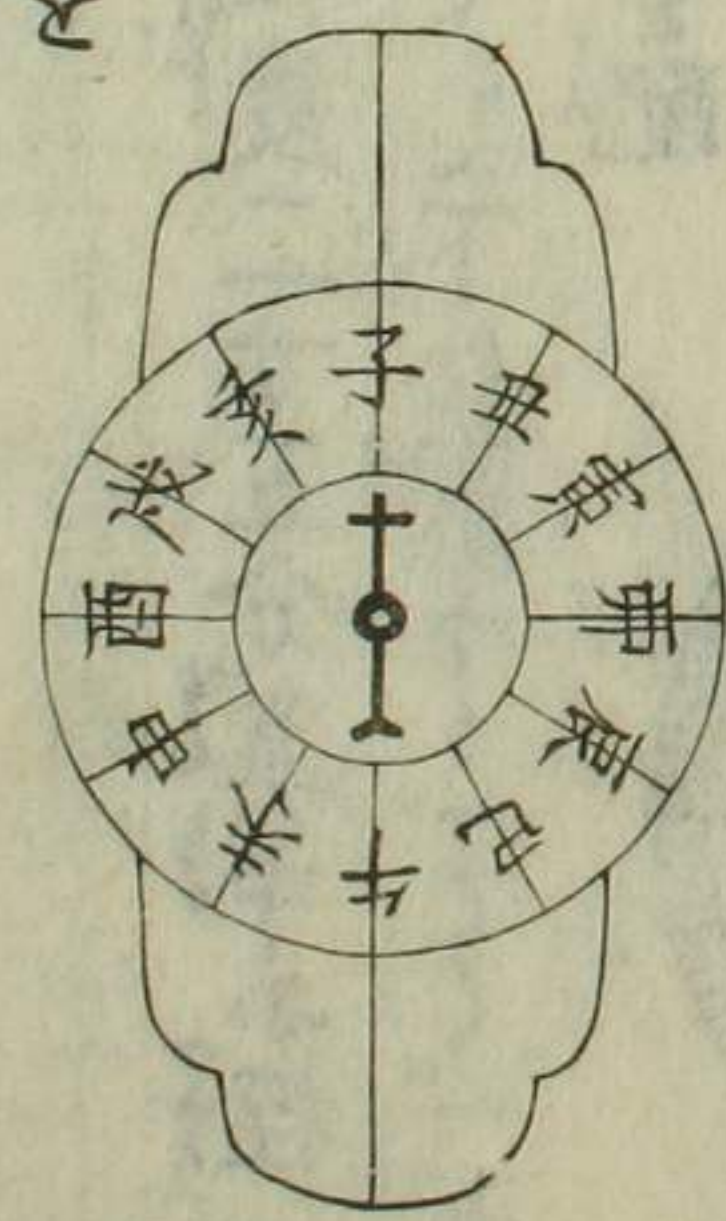
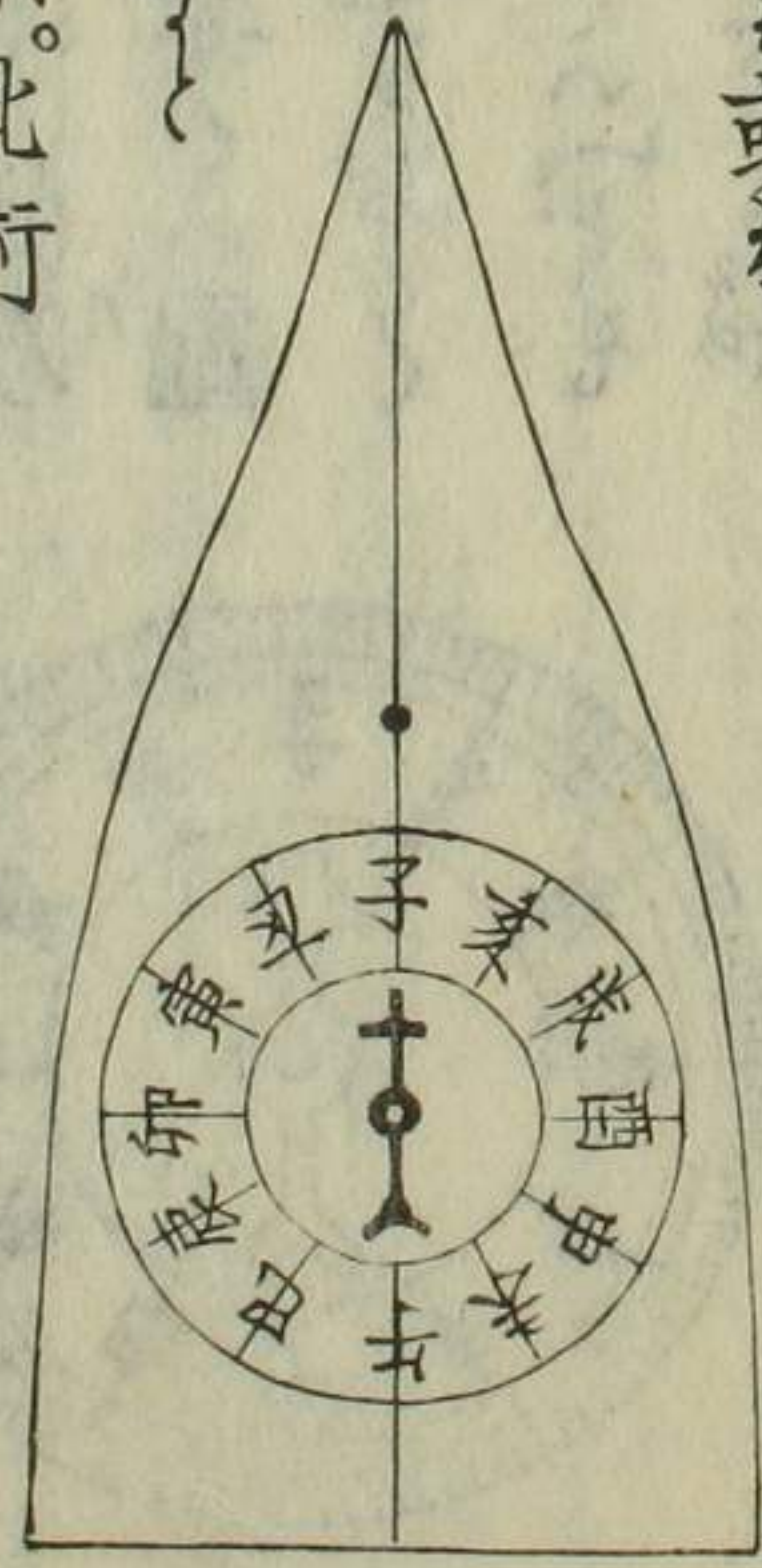
時ハ一先子支と磁針とも小。北方小當然して後。磁針と欲
 する方小向ひ。是其用なり。たゞ南錢驗時ハ子支ハ
 南ふりて磁針ハ午に向ふ。又西小向ひ。酉を指し。東に向ひ
 卯を指す。磁針と四方配分の十二支と交會を論せ。此
 磁針の指と以て其欲する処方從と知るなり。扱船上の用と云
 ハ海中へ船を乗出るとするに、此逆支を紙小寫し。磁針と

もし小船を正當の北に向ひて免
船中の平直なる所へ張付壁に
南方趣くんと欲せば其時つる
磁針の鋒の午支ふ當るより一船と
押廻し漕出すなり余是小劬て
知るなり

忍磁石といふ器あり是ハ密に其
直徑又ハ其地理を寫しこゝんとす
時他人の見顯すこと厭ひて忍び
やふ事法なれば法なり或ハ此
器と立覽器ともいふ小丸を臺に
仕掛けて掌の内にて當文を振る



方角と求め或ハ里町を知り或ハ
圖形をあらはすれ業なり
右用法づれも忍の術也
古傳云凡国郡の形を尽す
いへども方角回町を求るふ此術
を以て成すといふなり尤當
支と求め知ると本とハ間町と
定るとハ歩行をもつて相試
むすて忍の術ハ能陰藏とを

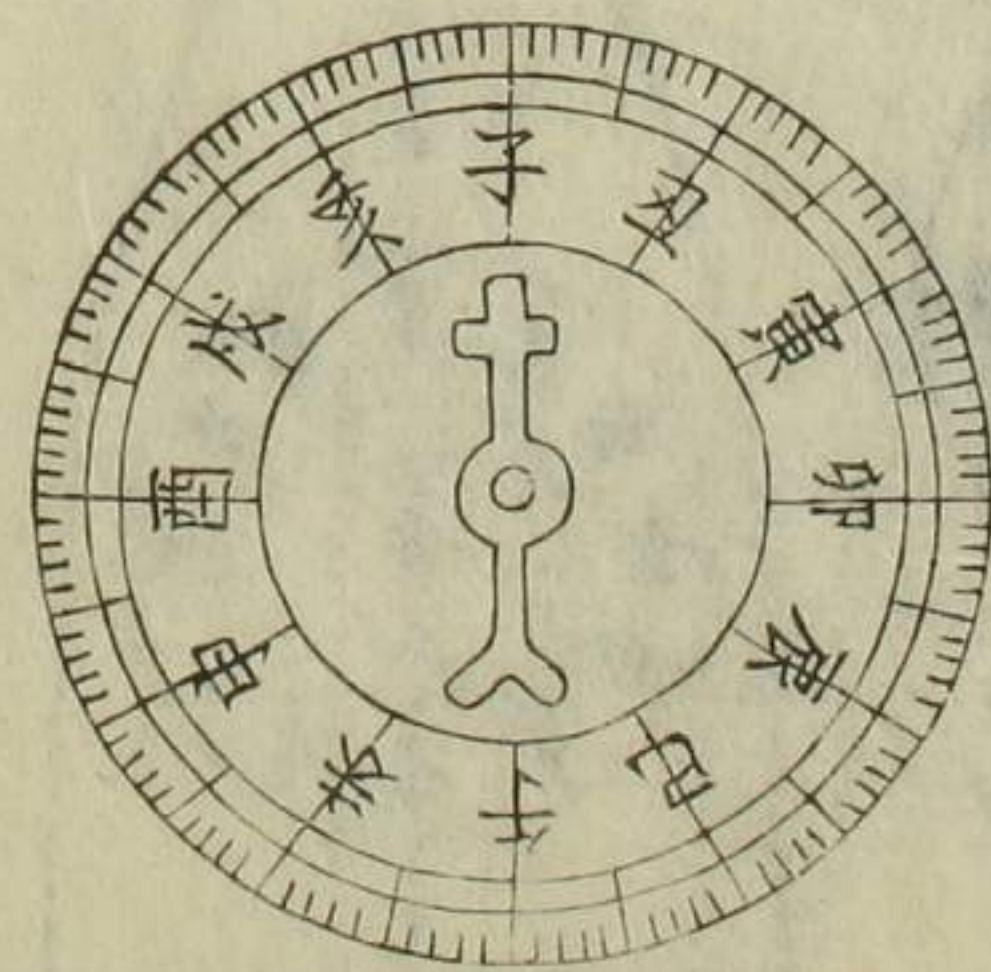


專要といふ其事法慎むべし又地里の量法時宜ふなり千變
万化の働さなり免角一身規矩の術ハ満ざるべからざる
得がたしハ筆談ハ尽すべし口傳云云

此器ハ胸小膺て用也。又杖の末ふ載て量る。立覽器と名け
 うる。ハ立なぐ。小覽の意なり。常小用ひ馴て益あり。試
 習ふべし。

小丸之用

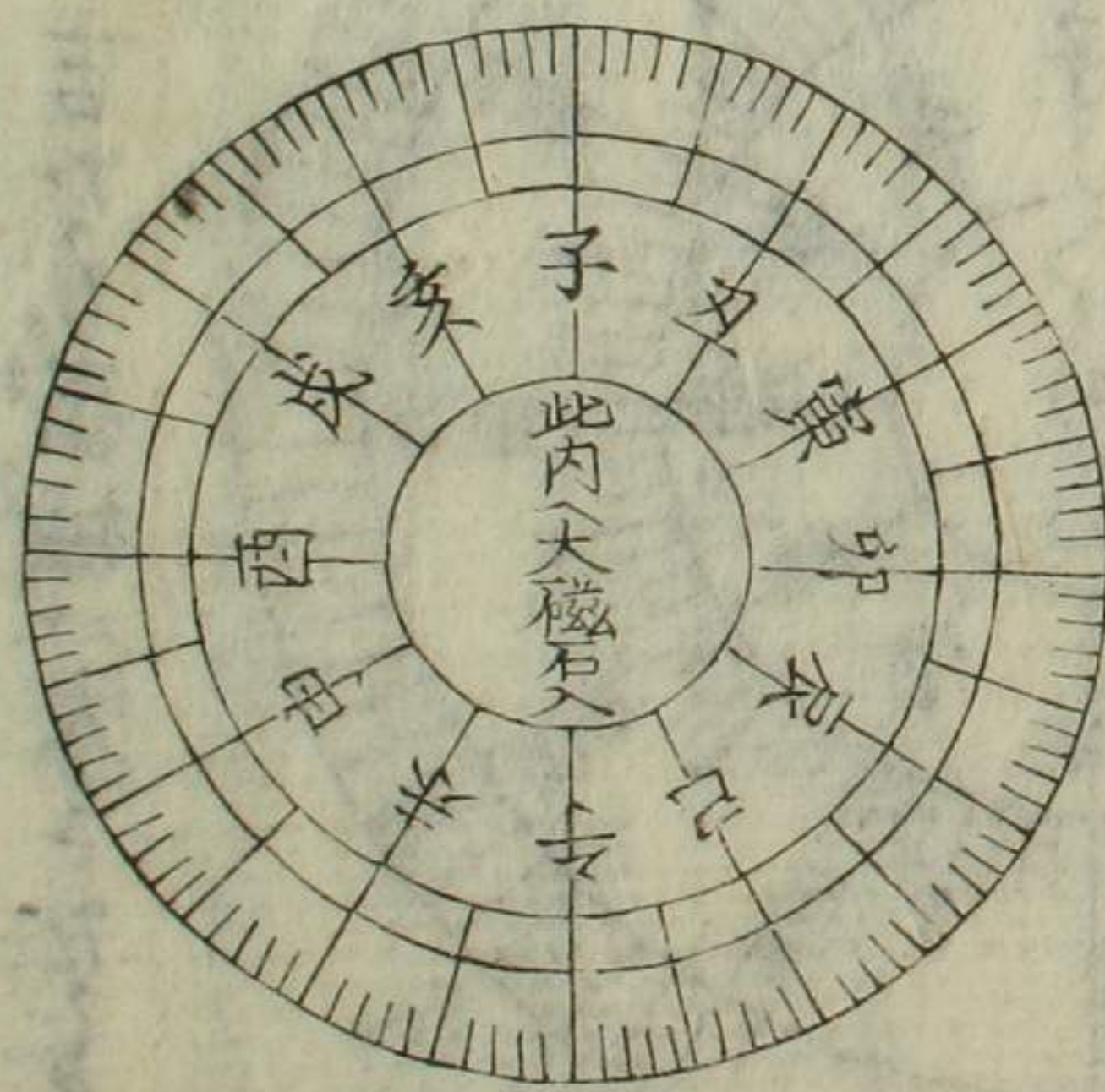
小丸ハ其制真鍮を以て作る。徑度二寸五分。真中ハ徑一寸
 程。磁針を藏る凹竅を穿つ。而して下に圖する。二段の
 間用を廻し。内の一段ハ十二支と配
 當し。外の一段ハ一支毎に十分乃
 線を刻じ。大略此の。委くハ圖
 と見て辨ふる。扱右ハ述る。おも
 全徑二寸五分。大略なりといへども
 先ハ是と以て定法と知るべし。其



故ハ大丸ハ徑一尺也。中丸ハ大丸の半減。徑五寸也。然ハ小丸ハ中
 丸の半減。徑二寸五分也。是と定法となり。然る。其用品々有。
 盤針術元器術ハ全く此器と用ず。て扱ふ。もの。忍磁石立
 覽器。隨川器。又ハ一本術等も。其術皆此器と主。其用法ハ
 各元器大丸。中丸。忍磁石立覽器。隨川器。一本術の用法と以て
 考へ知べし。煩く。爰小載す。

中丸之用

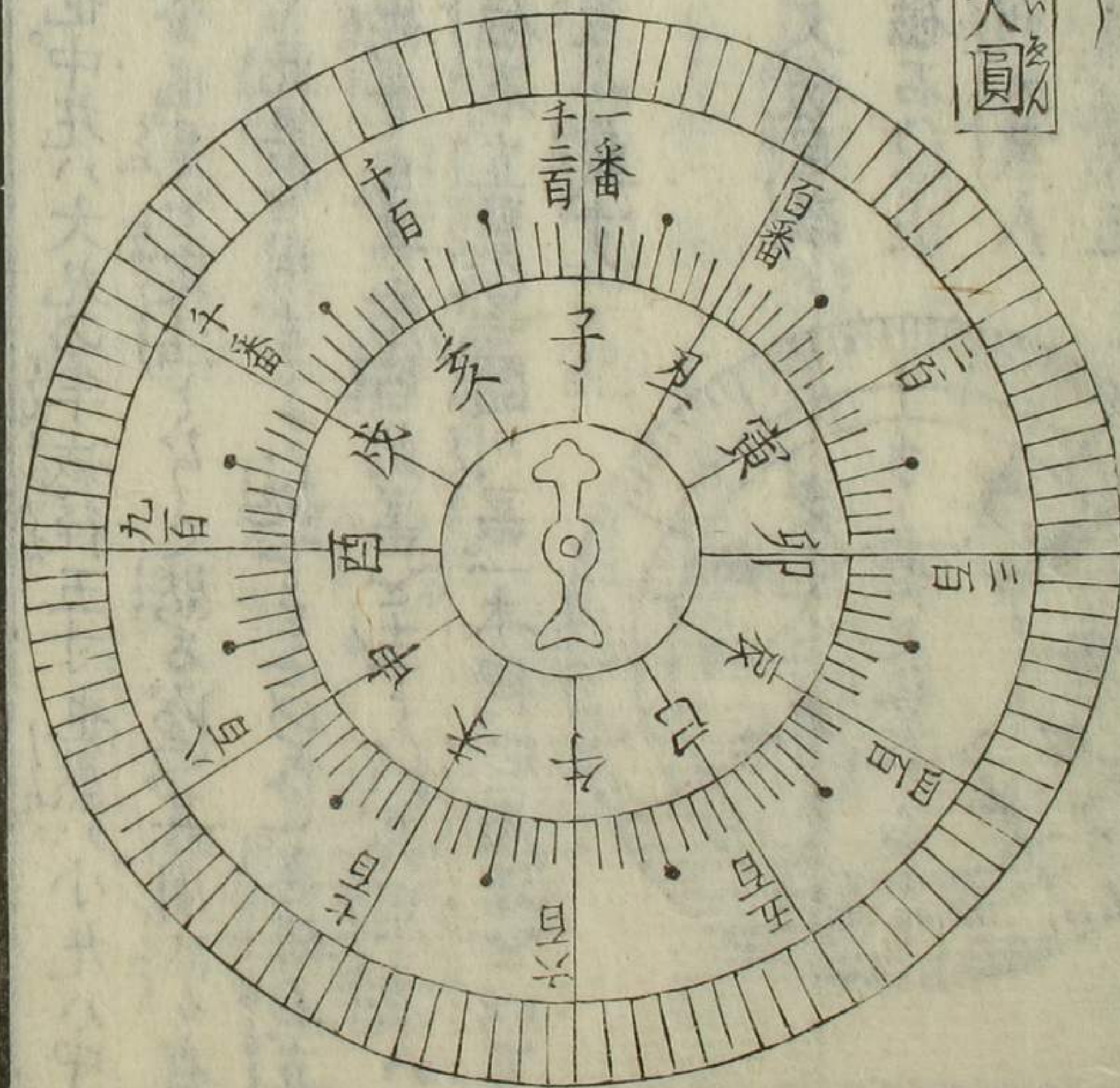
赤銅。真中と以て作る。又板目紙
 などで。制し。あり。大磁石の下に
 敷て。大丸角と均し。但大業ハ
 此中丸と。小丸の代り。用ひ。大丸
 と。別ハ徑一尺二三寸。四五寸。又



其品より。徑二尺も制するが吉なり。器械ハ大なるに
あつてもあつて知るべし

大丸之用並方維大圓

板を以て制す。徑一
尺厚さ五六分。まゝ真
鍮赤銅と以て制るも
可。或ハ板目紙と以て
制す。小丸の下に布て
用るも可なりと云り。其
制小丸と大丸制する
意の器なり。大場を
勤るふ分厘毛速うふ



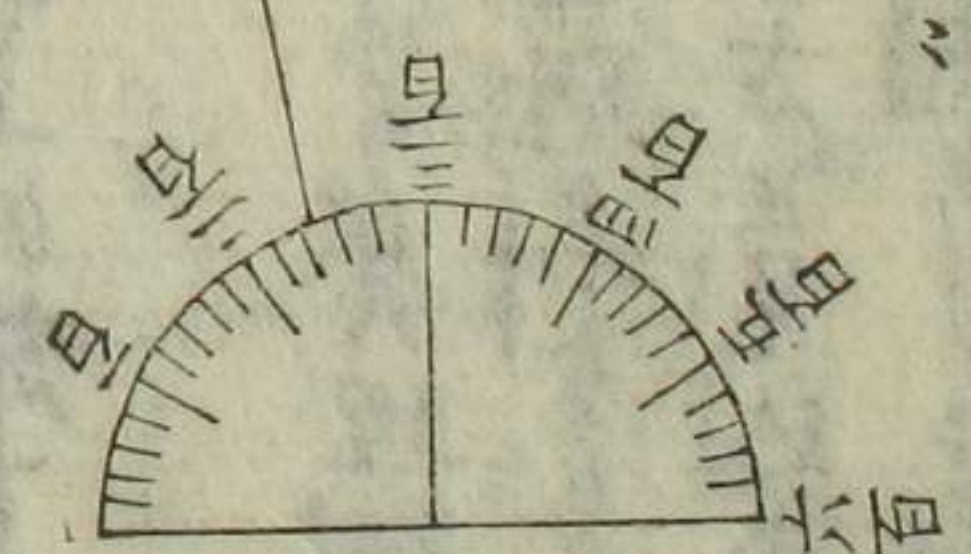
見る小使あり。依て大國の圖を制するハ必用也。盤中に
磁石を居るて勿論なり。圖のどく二段小圖を廻し。内ハ十
二支其次分線。其次ハ厘線なり。元器せしめ針糸なり。すべ
元器のどく。横手ありて。回轉し安れやうに基を制す。此
器を其基に彫入る。小丸を元器の上に施す。どく
知るなり

又云此大丸を半より折て用る轉法なり。其理徑捷なり
随ふなり。又世ハ方維太目と云も一物別名なり

大丸の用といふハ先本場をて。大丸の一の方と見込ふ當て圖の
どく。番附をなり。扱二目返も一を先みて見通し。開の
間數番附ふ記し。扱本目當見返し圖のどく番附とるなり也
何時なりとも。其術ハ右の通なり。大丸ハ至極小委し。故ハ磁

石小塵多^{ちり}時^{とき}に用^{もち}ひて益多^{えきおほ}といふ
 或傳^{あるひに}曰^い磁石^{じしつ}の塵^{ちり}を論^{ろん}ずる時^{とき}ハ大丸^{だいがん}を以^{もつ}て番附^{ばんつけ}と用^{もち}ひ。形^{かたち}を
 求^{もと}む。但^{ただ}二目返^{にめくへ}をも一^{ひと}ふ定^{さだ}む也^{なり}。口傳^{くつでん}云^い々
 其用法^{そのようほう}半徑^{はんけい}全体^{けんたい}兩圖^{りやうず}を顯^{あらわ}す考^{かんが}へ

見込二百五十八番

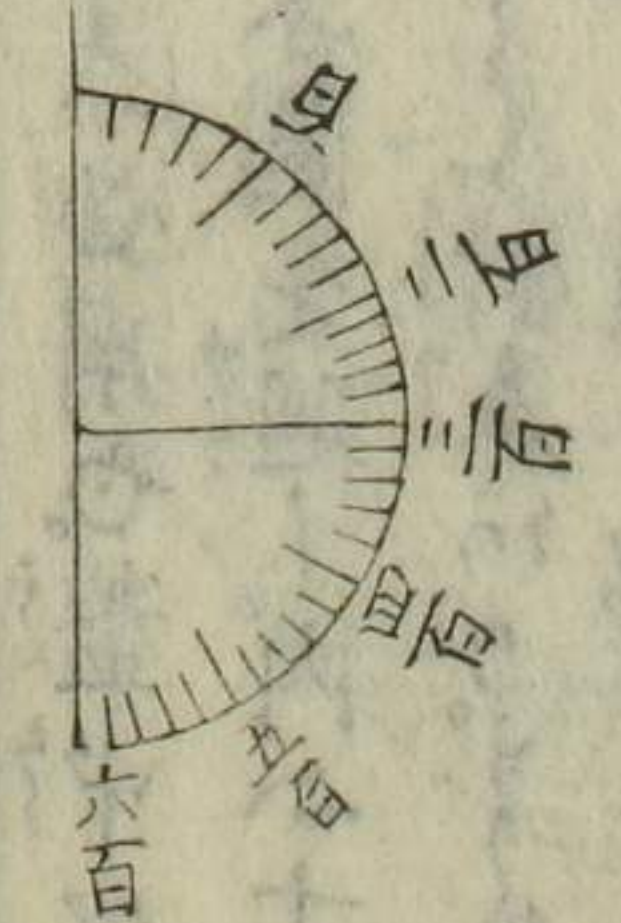


見込一番

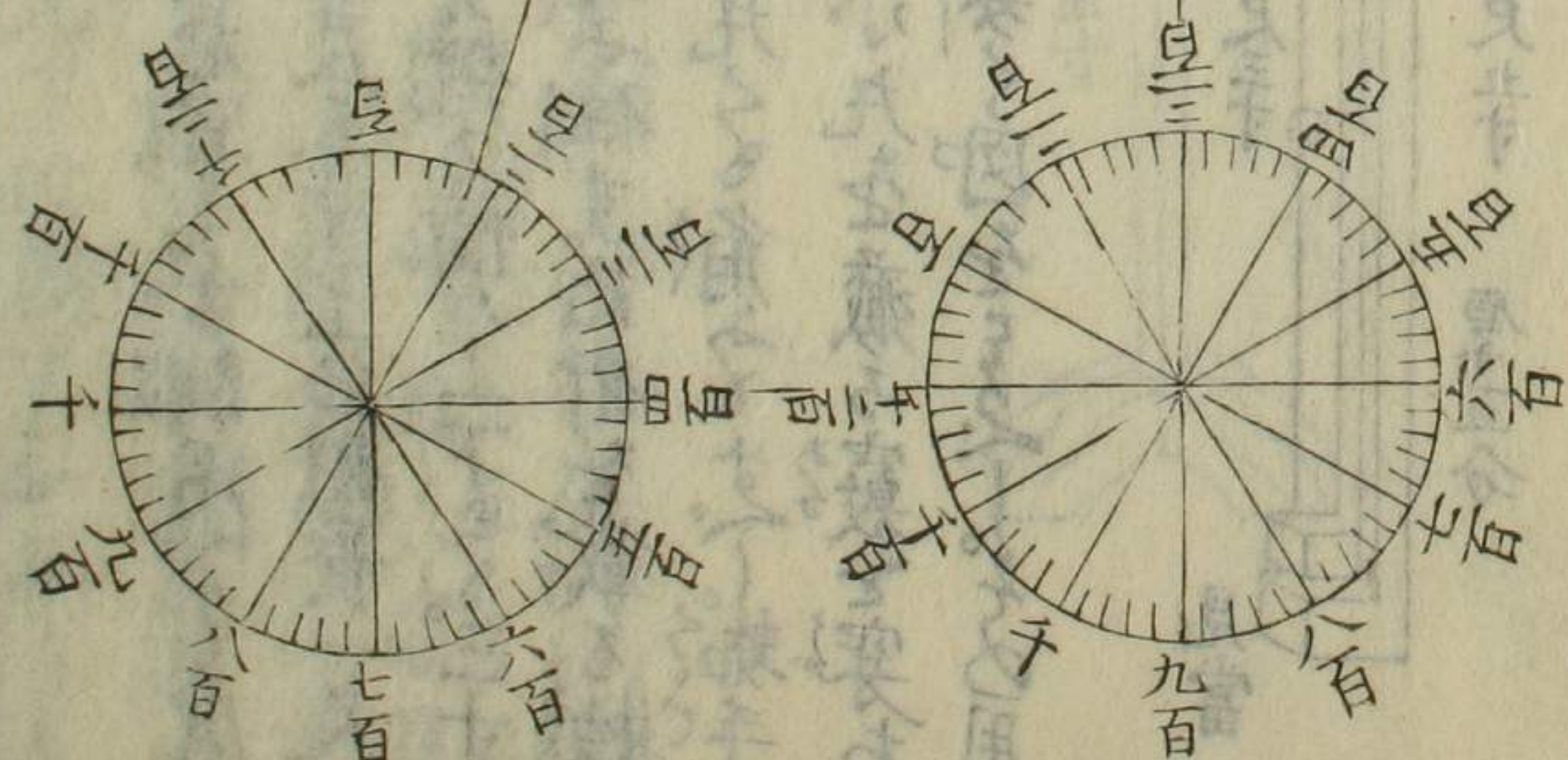
閑 三百番 三尺四寸

見込二百五十八番

見込一番



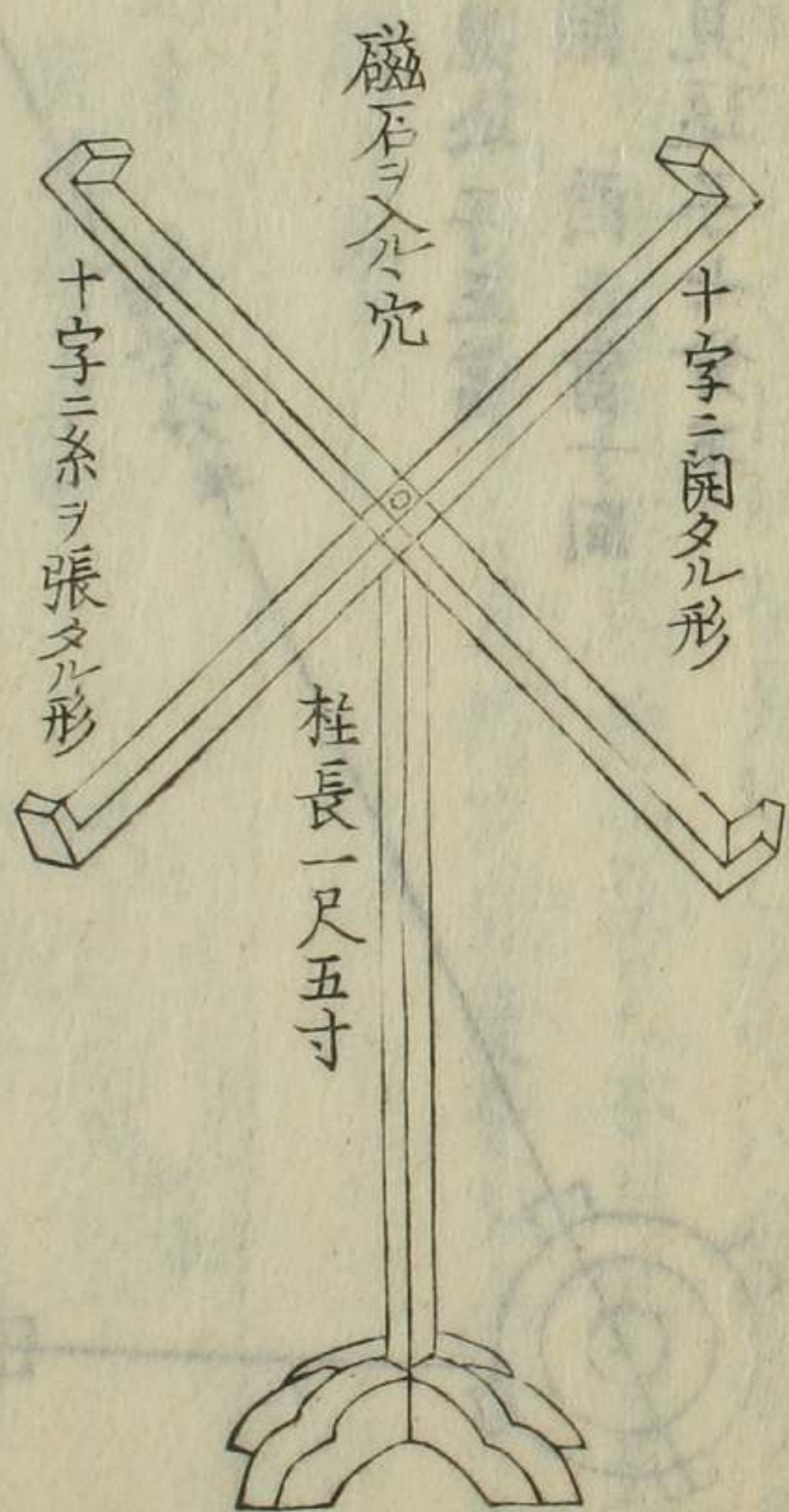
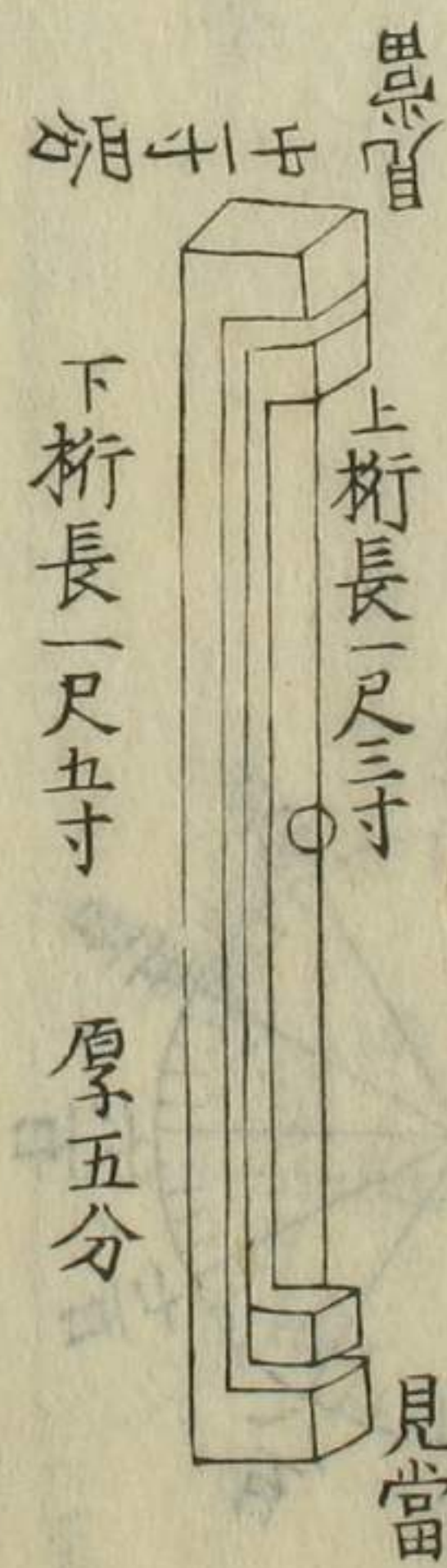
其用半徑ニ同シ故ニ贅セス



規矩元器之形

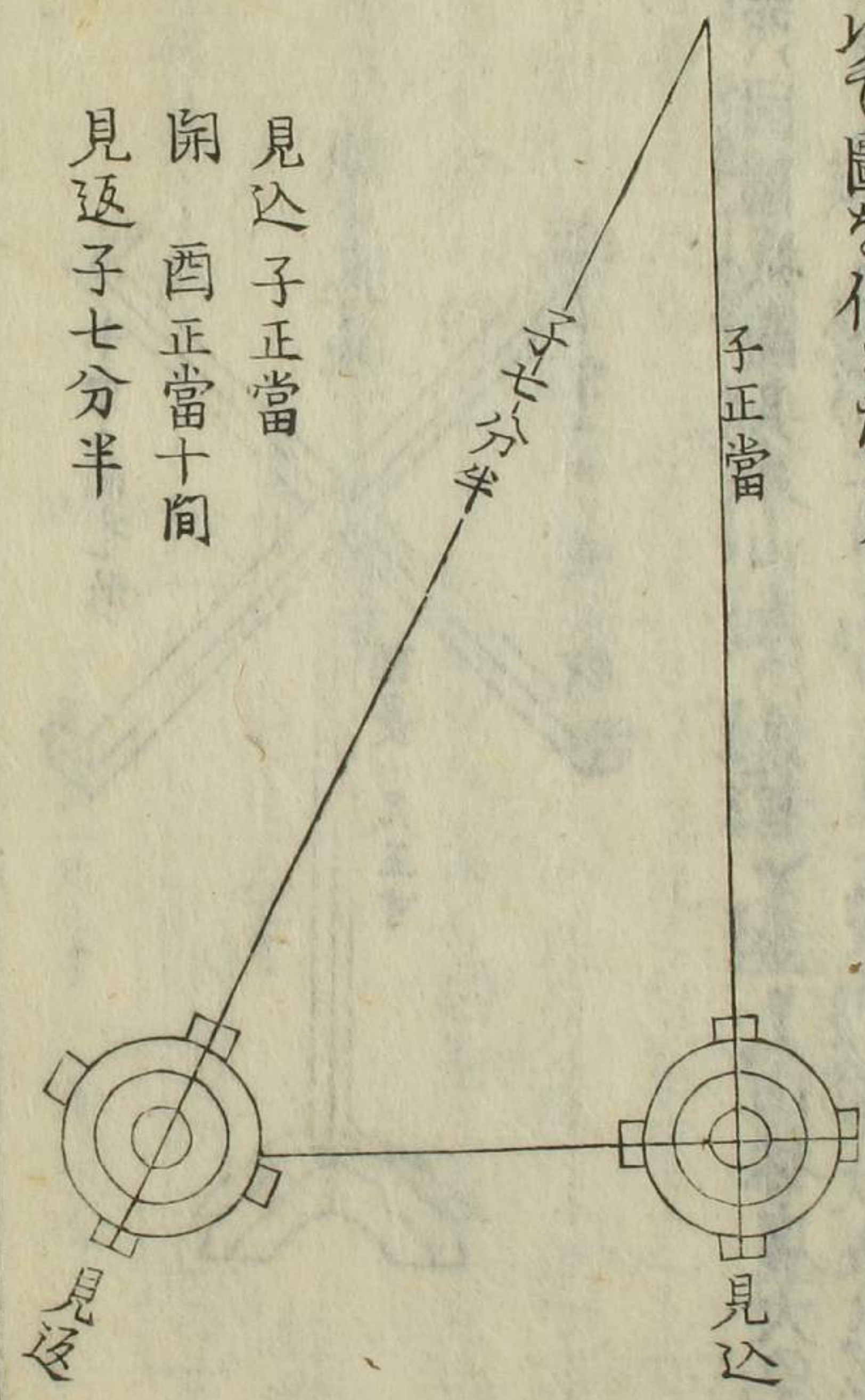
規矩元器ハ新古の二制あり。新制尤宜。古制用べし。其新制ハ木ハ檜と告と。下の桁長一尺五寸。上の桁長一尺三寸。上下開圖をなす。制す。桁の幅ハ上下も。三寸三四分。厚さ五六分。其人の好み任す。此桁を載る柱。立柱の長さ一尺五寸。太さ方一寸。凡そ角もすべし。蜘蛛手臺あり。恰好に従ふ。扱十字の正中。小丸を藏る竅を穿ち。小丸を入れて。糸の桁へ十字に張る。委々図をさす。その用法の詳ある事。即此下ふ記す。

規矩元器之形



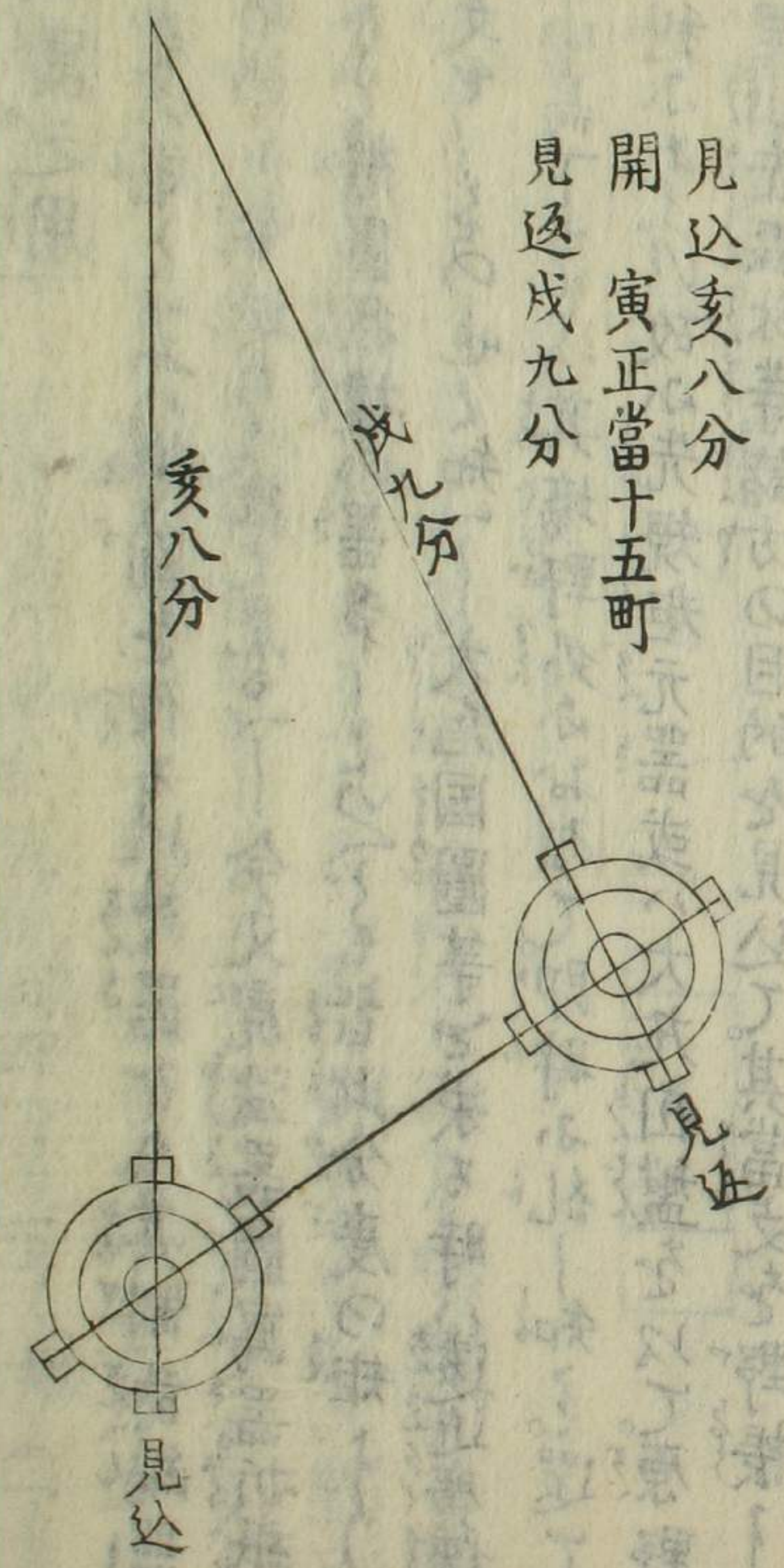
凡此器ハ国圖城圖其外山海の遠程と量る。山林廣大の境を結す。凡て大業に用る器なり。大丸圓盤。大丸といふ。圓盤といふ。同器なり。其理一般なり。其用。小丸を十字に上ふ。施し。十字。開圖して。糸線を結し。今其用をかん。今誠ふ。左ふ。一二の圖をかりて。以て。初學に示す。先下に圖する。あはく。

元器の本場ふ立て望所と見込て目的子の正面なり。よき
より左の方横直ふ酉の正當へ開く。十間開場ふ至り。本目
的を見返子七分半。かくのどく見終て後ふ圖のどく分度
の矩を以て圖を作るなり。



見込子正當
開 酉正當十間
見返子七分半

又術曰前術のどく。目的を見込む。亥八分なり。是より
開地寅の正當へ十五町。扱開地ふ至り。本目的と見返すに
戌の九分なり。かくのどく見終て分度をより。繪圖を
作る。前術のどく。

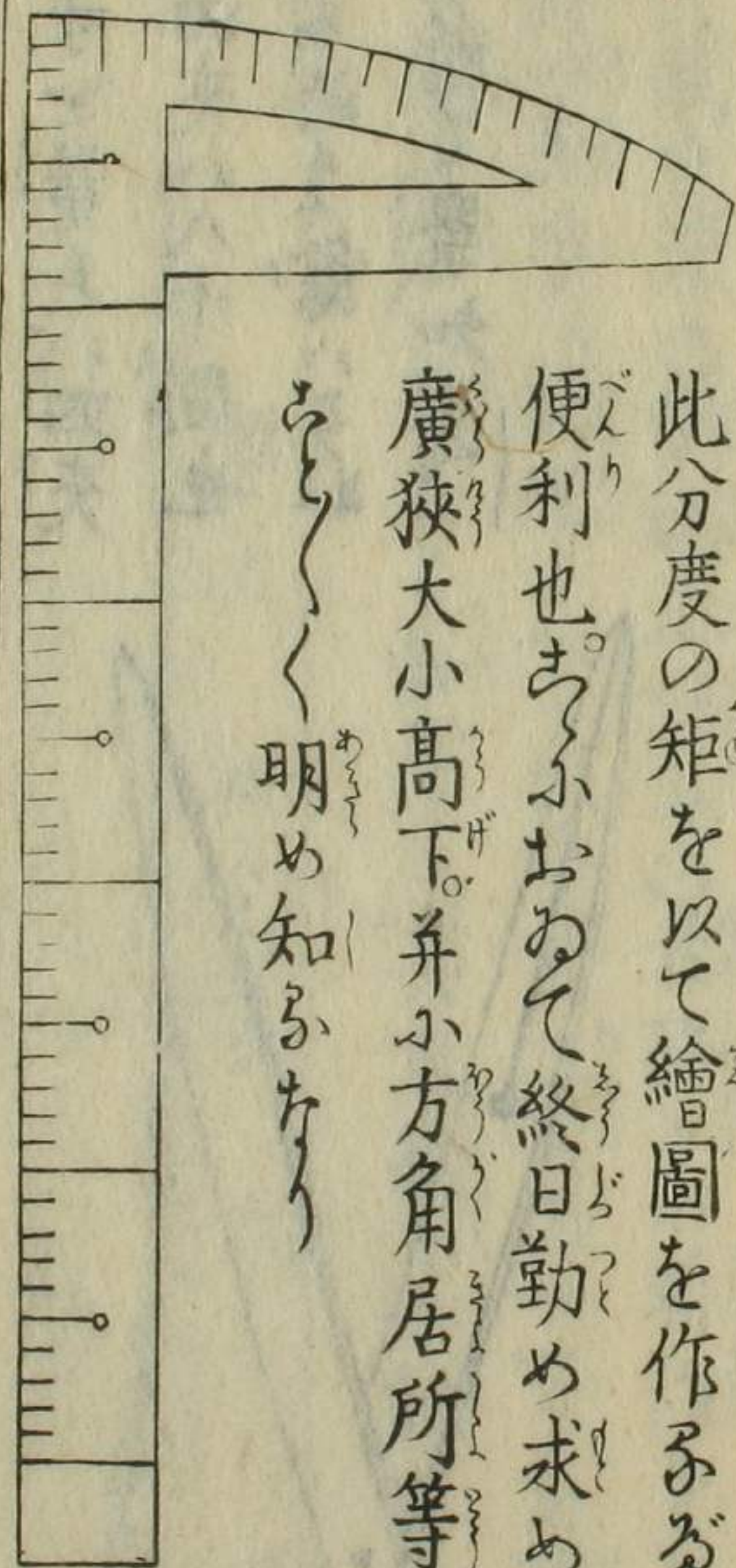


見込亥八分
開 寅正當十五町
見返戌九分

分度之用

分度の矩といふは。繪圖を作るに神器なり。其制前編器
械の部小委述たり。往て見るべし。今又虎法器圖寫器折紙
方々。繪圖徑捷の器多しといふも。皆此分度の矩より
工支なり。もの也。と知べし。大凡國圖等と求る時。遠近廣狹
大小高下をも。其場野外におゐて。即時ふれし。知て。還て
便利ふ。故に先規矩元器。或は大凡四盤を以て。原野
村里山岳森林等。諸方の目的を見込て。其當支を野帳に
記し置る。又開場幾所なりとも。其場々に當支と間町とも
同く記し置る。見返の當支をも見込開場の。野帳に
記し置る。扱ふ。と段々先々の場ふ。つる也。かくの。終日
幾度も求め知て。而して後。其日止宿の所におゐて

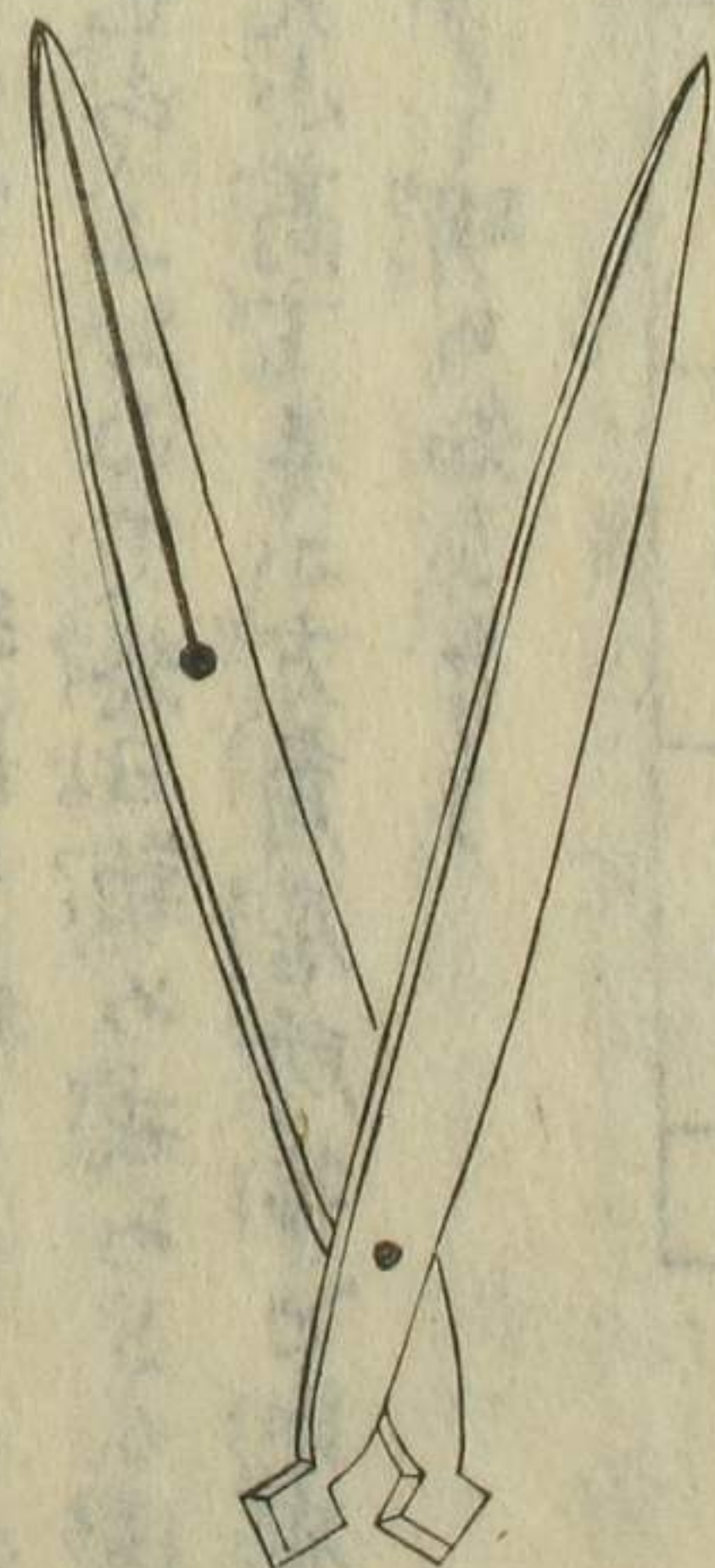
此分度の矩を以て繪圖を作る。その理
便利也。ふ。おゐて終日勤め求め。遠近
廣狹大小高下。并ふ方角居所等。と即座ふ
。明め知るなり。



渾天之用并類尺試定木之用

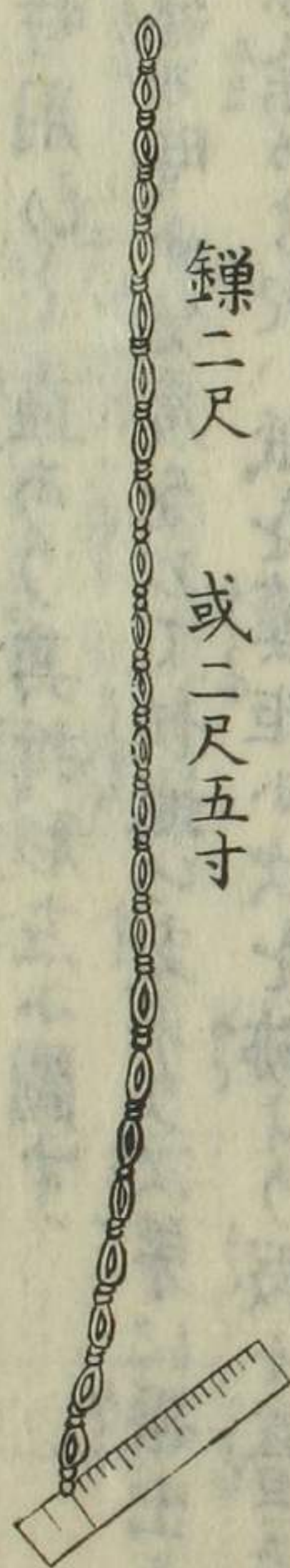
渾天の用といふは。此より彼遠程と求りんと欲する時。假令。向
方ある。一間の種を夾み見る。方尺二尺の先なる渾天の開口
二分なり。向ま。遠程百間なり。又五尺二寸を種として夾み
見る。方尺二尺の先なる渾天の開口二分なり。向ふ。その遠程
八十間なり。遠近高下廣狹淺深同理なり。宜く考ふべし。

又向面小種となすべし。間尺の知るる物なり。時ハ先何やをも
 目的を定め。是を渾発の口とて。夾と前へなり。後へなり。共。或
 進。或ハ退。其開場や。又以前の種と夾とて。其差口を以て
 方尺を量て。遠程を知らる。假令ハ初小夾とて。開口二寸
 後小進で夾とて。開口二寸五分。其差口五分と以て。進
 間数二十間あば。五分の口を二十間と定め。此口を以て初
 口二寸と量とハ。四夾
 かり。四夾ハ八十間也
 と知るなり。餘ハこれ
 とて。察知す。

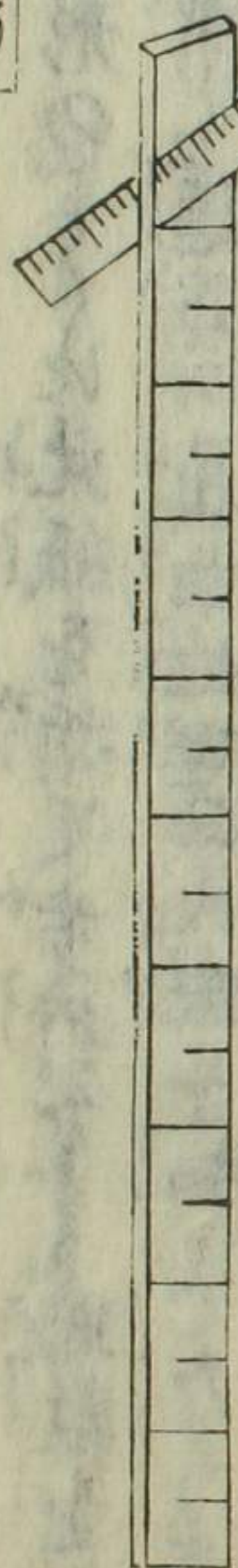


願。試定木の制。近來好事の者。種々の新作をなす。い
 一得一失あり。拘泥する。今其二品の一。之を圖して。勘
 考。備ふ。余ハ準じ。知る。其用往々。不記す。故。ふ。に
 贅セ。

鐮二尺 或二尺五寸



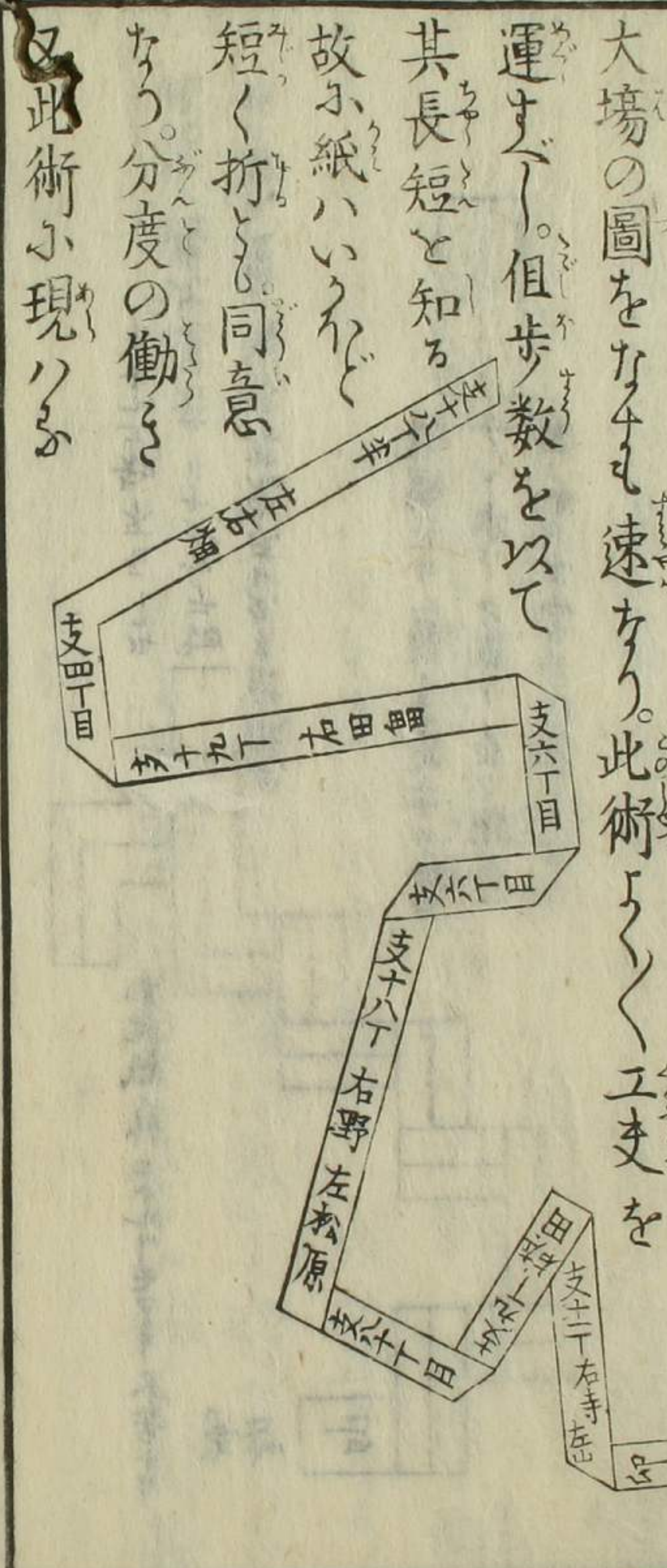
矩二寸五分或二寸 定木



折紙之用

折紙といふ。紙を長く。繼立て。歩行なり。立覽器を以て。方位
 と定め。是を折て。其道程の曲直。遠近。を知術なり。其用法ハ

載折目毎の真中と地心と定めて針を以て突て形を寫す
 方角ハ初の地卯へ向う寅へ向う其格ハ應じて考る
 間町ハ足数めて記す。二人云合せて一人ハ立覽器と携へ
 忍磁石ともいふ方位を定め一人ハ折紙を勤ながら歩数を記さ
 一物別名なり。外面よりハ徒歩行する体に見て然もいふ
 大場の圖をなすも速なり。此術よりく工事を

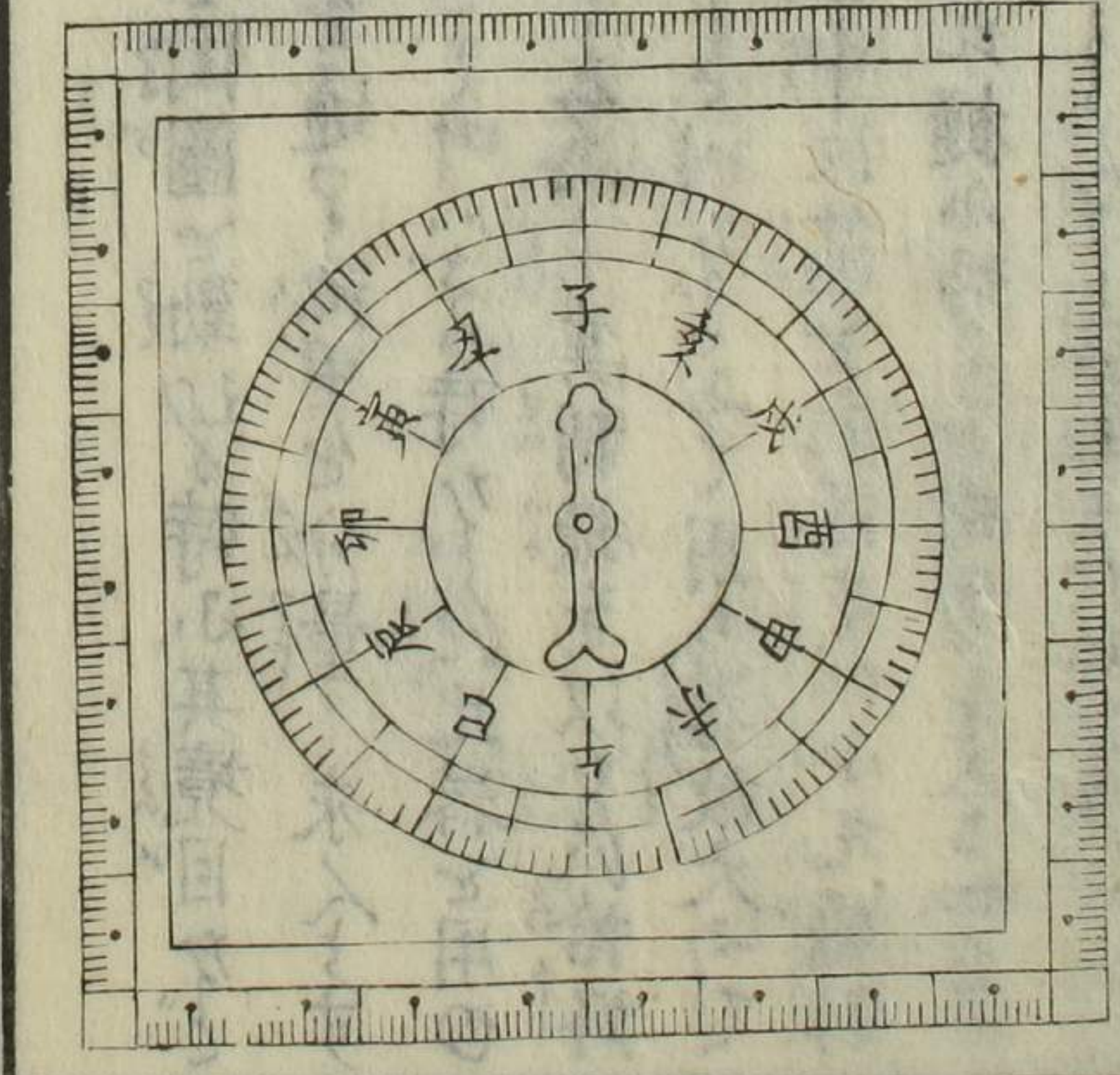


又此術ハ現ハる

隨川器之用

隨川器といふハ遠境と量る。國圖と勤し時ハ其境目な
 して大河ありて其河の岸を通る地里を分量し求んとす
 山岳峻険ありて攀上るに叶はざる時ハ此器を用ひ
 船路を量ると同意なりとある。其制板を以てハ恰好
 大畧方一尺厚一寸許烈しき川なりとて用る器故大なり
 重き吉といふ図のどし正中に筋を引逆支の小丸磁針
 と彫入る。両方に樋を穿ち此樋ハ均しく線香を入る如く
 是ハ両香を見合せて急なりと緩なりと知るためなり
 其此器を用る法ハ先陸ありとて平町を勤めてなりとて
 又ハ間町を量つてなりとも近辺の木ありと岩ありと目
 する物を船路の術ハ湊の種のどし根発の口ハ合せ置板

船小なりとも筏ふなりとも乗て。右の隨川器と船筏の真中
 へ居へ。扱乗出して目的へ種の渾焚の口の合時幾干間過る
 と知て水上幾町ふ線香幾分炷と香の炷程を定め。扱方角
 と直見して何の幾分へ幾
 町何の幾分へ幾町と野帳
 と綴むなり。若渾焚の種
 とあがた時へ捨糸の法と
 用むなり。船路の度数
 と元來同時みて方角と
 付け。間町を其方角乃違
 毎に記すまでの異別あり
 續いて河ハ屈曲多きもの

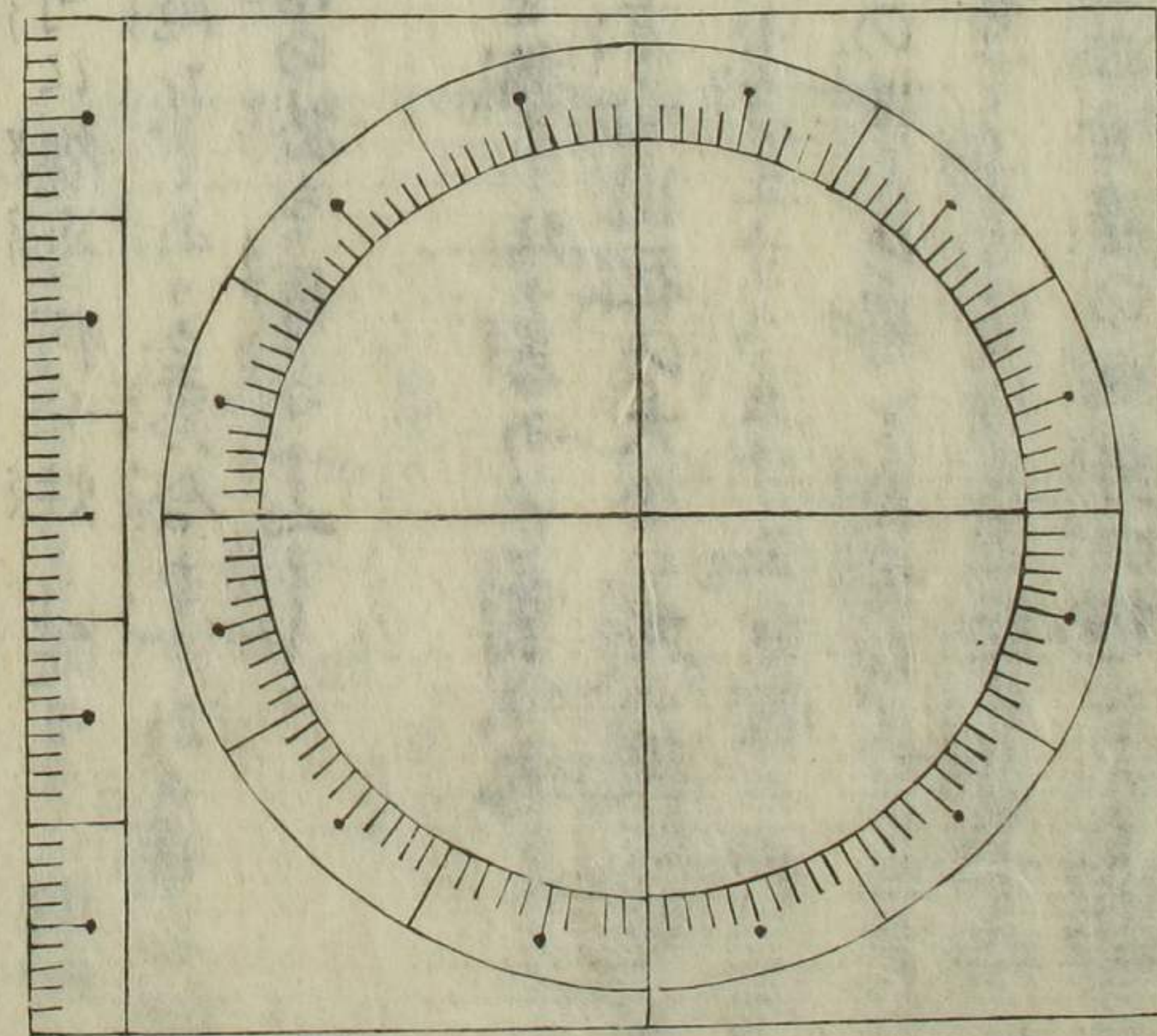


舟のめなりと。初水上幾町に線香何分炷と定ると八間町と
 短くして量る可なり。滝などある落合などある時ち船
 足速うなり。其に用捨の格を専ふすべし

虎法器之用

虎法器といふ。分度の理を移したる器ありて業の速うなりと
 分度小益す。其制作よ。云。方面山徑の大小ハ好み従ひ隨分
 板を選い。厚さ四分程。方五寸。五寸五分程。削る。内
 の山周と鋸落削る。常の曲尺の罫と盛付。向ふ子と定め
 遣ふ。故小圖の。星を付て子と定む。又正面の真中横に
 針をお糸を引糸の。地心分度の柄針の格なり。造様ハ
 図を。時。紙を虎法器の方面。合せて。何十枚も切。紙
 毎に十字と折糸。毎小星を付て。向ふ子。野帳と以て

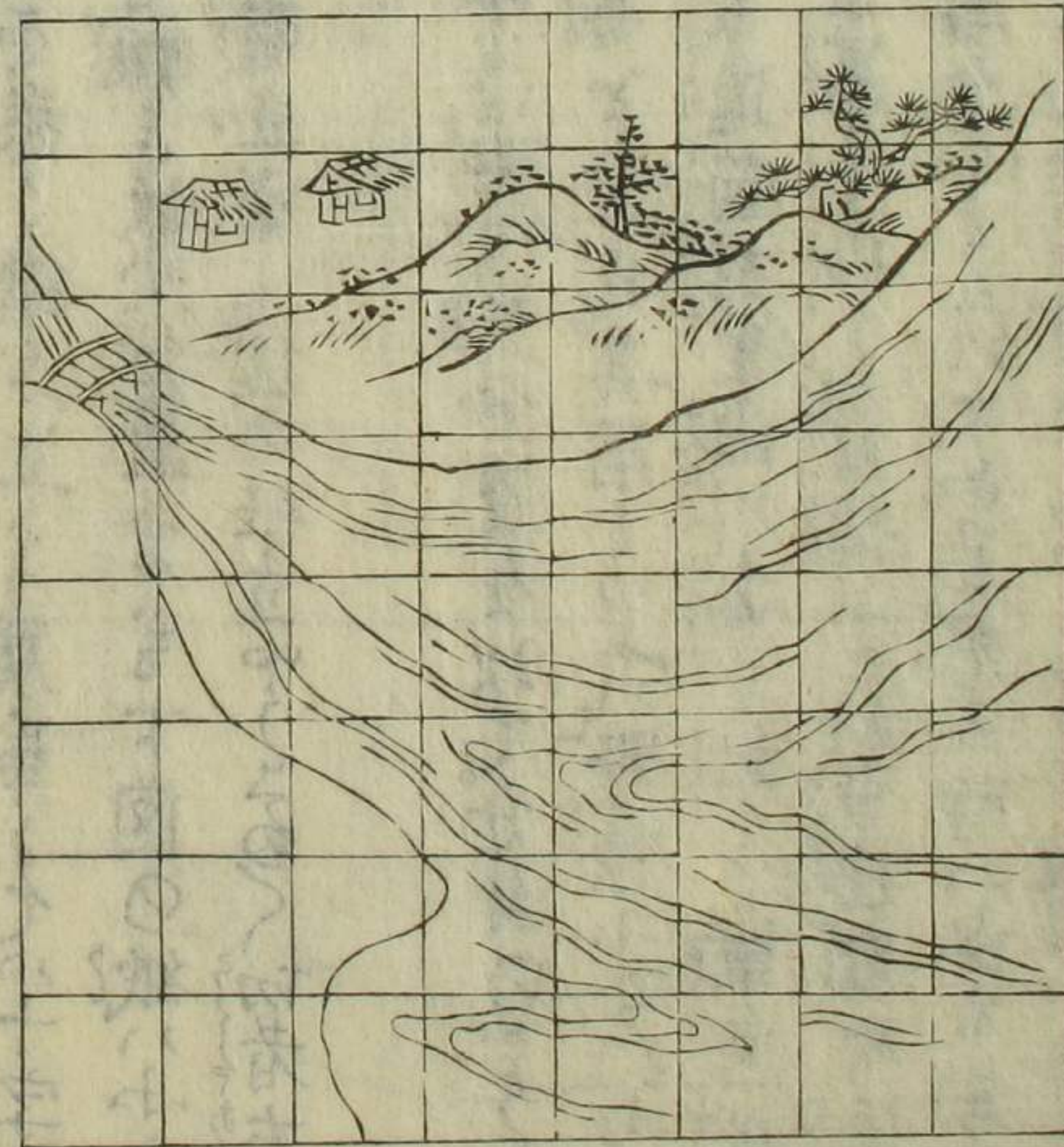
假令卯の五分十町とあり右の帛一枚を取て虎法
器の下に置に向ふ子と合せ子丑寅卯と順支ふ繰り卯の
五分針を立虎法器で
取直して曲尺の方で十
町を量て知ると分度の
又次の分付へ至る
時右の帛尽るとは外
の紙を方角と町と合
やうに九向子と外さる
ふ繰合せて又前の
順支ふ繰て分と合せ取
直して町と引分度より



も事速う也紙を小さく切るハ十字細くして地心糸は合せ
られ為かり其上下圖を悉く繰り立てる廣帛とてハ十字も
差こわり方角甚合せ難故分度ありても下図の紙ハ小
可也紙の盡る度々ふ繰り立てる図の仕立てる者有
圖寫器之用

圖寫器といふハ左の圖するが如し先分度を以て分付の
町里と白引して次小墨と入る也其用といふハ野帳ふりある
圖風景とて形を圖し道筋村里山川委く記し草図成
就する時ハ是を清圖ふ寫しむふ目積みてハ分厘間町里
といふ此故小圖寫器ありはすなり然る時ハ少も差
あり其上假令五寸一里の図を二寸一里の積りあり
紙をちびり等速うなり

二分ウ三分四方ウどふ削
 ころ木と四角かころ間を
 一寸つとも五分つとも定め
 て糸をまう草図の上こ置
 扱清図紙の上こ同寸の方
 と置く上よりいくつもの何
 処小山峯又川左より幾
 目か家橋など右の術の目
 とりて見あつせ又清図を
 捲へ其格小段々うつ術を
 除きて形色をまうゆて
 大を小まぢり小を大の
 のどころと術目をまうて
 考ふなり



間竿之用

其制極木そのせいぎく方二寸許かたにすんこほ又八二寸五分三

寸小制すこせいるもり九角くかく削く至長しちやう九尺小定くじやくせうていむ但が一

三尺さんしやくづの所ところ小銅金せうどうぎんを入いれ此制このせい前編ぜんぺん小委せうい一

打様うちやうハ圖ずのど半間はんかんの所ところ組合くみあせて通とを定め

ねと竿えと打うちど。但が二本ふたぽんを用もちる也なり或ハ数町かずまちと打行うちゆきと

いども曲まることなく。一文字いちもんじと得えたるも然しかる時ときハ平町へいまちの

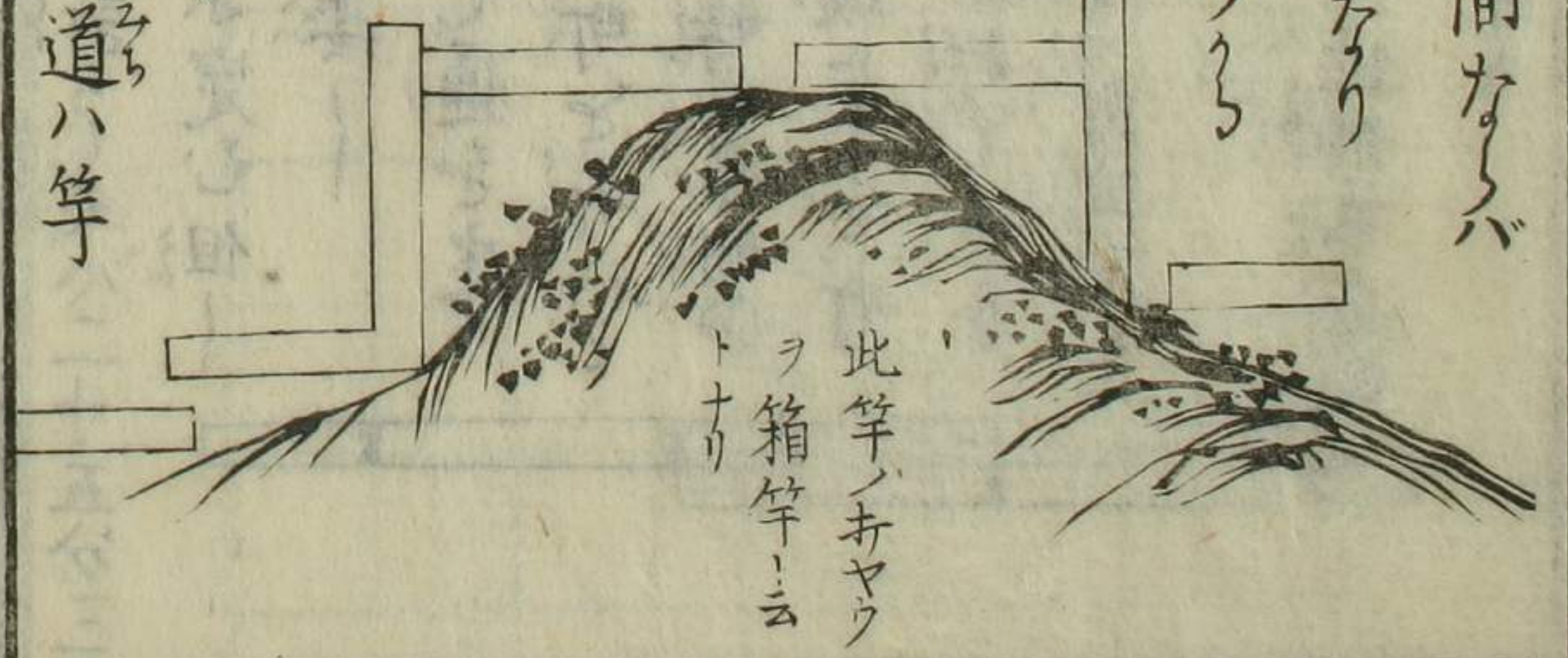
地幅ちふくを求もとるが如ごとく亦五間ごかんとも目立めだつる坂さかなど打

時ときハ先高せんかうを求もとりて是これと鈎かぎ小用せうもちい扱さ堅か小打せううちて是これを

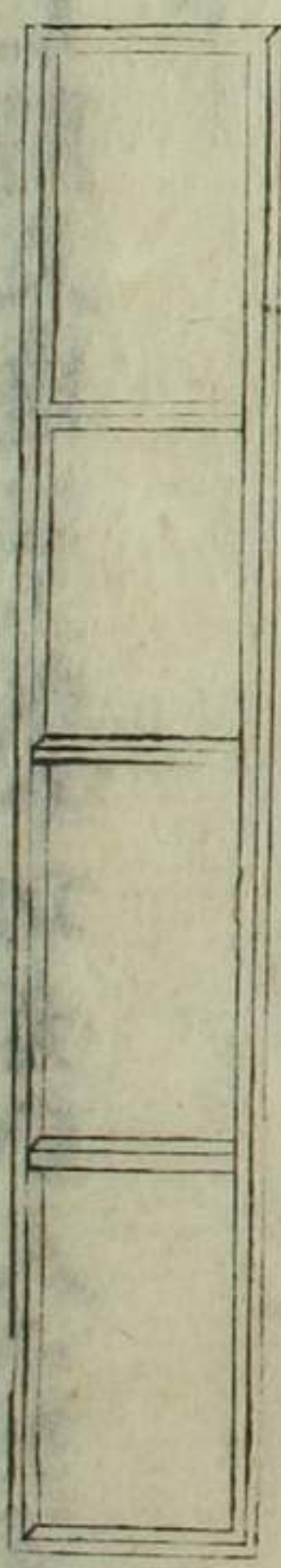


平地ハ繼竿也。棹ハ一間なぐ七尺。二間なぐハ
 一丈三尺品より棹用ること。規矩の法なり
 差を本とする也。繼竿ハ二本とて少く
 づ。箱竿ハ品より。三本も持て
 方に削る木棹を盛付
 ぶ。石壇など打て。登竿箱竿と堅
 て知まハ三四五とも量るべし

或人云此登竿箱竿ハ竿の制ふあは
 ちやうのこなり。上所謂と混ざる
 又或傳小箱竿といハ三尺づの所
 二本繼合する制なりと云ふなり
 輪竿といふ物なり。是器ハ九折なる山坂道ハ竿



少くも繩少くも邪針ありて。間丈齟齬出来る者也。この輪
 棹を用るとハ少くも間尺違ふなり。其制幅三寸輪六尺也
 曲物。竹輪少くも作る。譬ハ其形木綿糸線繰出す車の如
 かり。扱程の木を心木小施し。左右より
 二人少くも轉ずるなり。一周一間と定む。尤
 輪小印をかりて。其所まで周ると
 一間と知る。山坂道の用なり。薬研乃
 鐸のどく齒を薄くするハ悪し
 箱竿といふものなり。此器ハ長一間横一尺。高三寸檜乃小
 割をとつて作る此竿と二つも二つも設て小口を突合を
 間を打たる此箱竿
 少く町見を改る時ハ

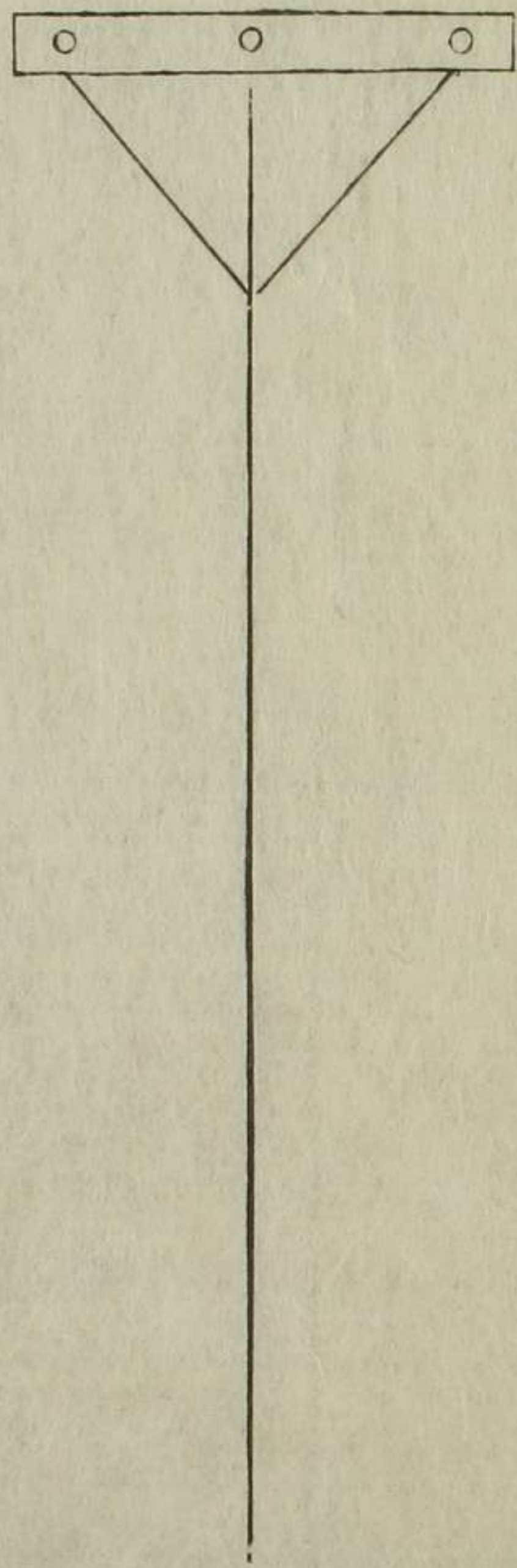


假令不切者といへども。間尺違ひず。況や切者の人ふおて
とや所ふより用ゆべし

間繩之用

間繩ハ極上金引の真草を用也。其例組様前編器械の部ハ
述ぶ随分堅く捻て。澁り蠟を塗て。湿氣の徹るごとく制
すべし。繩の張るハ捻るごとくすべし。捻めは間尺違ふ
必也。左一間毎に白紙を紙結付て。印を眈合する
大方ハ一町までありて。其より以上ハ又總て前の通りに
張る

又錐繩といふものあり。左ハ圖を以て。形を平錐の
一間の竿の両端と正中ハ間繩を三筋付て。此三筋の六
尺下より一緒に結び合せ。両端の二筋を。餘りを切て捨



正中の一節と長くして。間繩ハ用也。是を以て正中の其
物ハ押當て繩を引れば。少しも斜が。直になる也。尤兩
端の繩何れも。少しも捻る。直く。勿論也

量地指南後編卷之二終

